

# 図書室 & 図書委員の活動紹介

令和6年12月24日

学校名	麗澤中学・高等学校
-----	-----------

本校は南柏にある私立で、校内には中学生と高校生が共通で利用するメディアセンターという名称の図書館があります。本の貸出返却だけでなく、Chromebookの修理受付やレンタル機の貸出返却等も行っています。自学、読書、授業利用、イベント開催など中高6学年の生徒と教職員に親しまれ、毎日100~200人の利用があります。

## <メディアセンターReaL (Reitaku educational adventure Library)の様子>



2022年5月にリニューアルし、メディアセンター(愛称 ReaL)として、森のイメージの開放的な図書館になりました。



毎日6年生(高3)の選択科目の空きコマの自学にも利用されています。もちろん読書(蔵書約35,000冊)や授業利用も!



キャリア教育、研修旅行、総合学習など学年並びの調べ学習での利用もあり、他館からも資料を借りて提供しています。



放課後課外講座 ReaLab と称し、大学や新聞社、その他団体主催の無料のオンラインセミナーの放映や関連本の展示も行っています。

**<委員会活動の様子> 中学と高校の図書委員と一緒に活動することもあります。**

図書委員(中学 30 人、高校 58 人)は、それぞれ無理なく活動できるよう、希望制で、昼休みまたは放課後のカウンター当番&返却本配架(書架整理)、イベント係(掲示・展示含む)、おすすめ本 POP 作成、本紹介 (HP 記事含む) などに分かれて活動しています。



👉選書ツアー & POP 講習会・図書委員のおすすめ本 POP 展示(紀伊國屋書店 写真左・中)と、メディアセンターカウンター前でのおすすめ本 POP と本の展示(写真右)



夏には中・高図書委員のイベント企画で『ジュラシックパーク』の上映会と、恐竜・進化・化石等関連本を展示。



中・高・大学生で競う麗澤大学図書館ビブリオバトルの中高予選会の様子。

他校とのビブリオバトル交流会、文化祭でのビブリオバトル(録画放映)と POP & 本展示





◆カウンター業務は、週1回、決まった曜日の昼休みか放課後に活動します。都合が悪い時やうっかり忘れは振替え可。(図書の貸出返却、当番表のチェック、返却本の書架への配架と書架整理など、利用者に快適便利に使ってもらえるよう丁寧にお仕事しています。

◆毎年その時々を図書委員メンバーの話し合いで内容が変わるイベントですが、Bookスタンプラリーを実施し、本を借りてスタンプを集めたら、景品(手作りしおり等)をプレゼント、などの企画を行ったりしました。

◆文化祭当日は、クラス発表や部活の出店もあり多忙を極める生徒が多いため、有志でビブリオバトル(事前録画、当日ループ再生し、投票用紙またはフォームによる来場者の投票)の形式を工夫し、おすすめ本POPと本の展示も行っています。

◆契約している電子図書館、柏市や県立図書館の電子書籍案内、新着本案内、教職員・図書委員・司書のおすすめ本、その他イベントや展示、委員会活動等の様子は、メディアセンターのサイトもぜひご覧ください。👉

<https://sites.google.com/hs.reitaku.jp/media/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>





## 麗澤中・高メディアセンター 三谷先生にインタビュー



図書委員の活動の様子、委員会活動やイベントなどに関する生徒の感想など、麗澤中学・高等学校メディアセンター司書教諭の三谷先生に、オンラインでインタビューをしました。

### <インタビュー内容>

メディアセンターについて

委員会活動の様子

ビブリオバトルについて

広報活動について・その他





## メディアセンターについて

メディアセンターで学習する良さはなんですか？



もともと、自学（主に6年生の自習）や総合の時間の調べ学習によく利用されていましたが、2022年5月に改装リニューアルして、現在の形になりました。

大きく自習エリア、教え合いながら勉強できるフリーエリア、授業や課題で使える情報発信エリアの3つに区分けされ、用途に応じて多目的に使えるフレキシブルな図書館として、以前にもまして授業や課題調べ、その他に利用されています。

また、生徒たちからは、

「<sup>ゆめ</sup>自分プロ\* で使う時は楽しい」

「課題の取組で使うのに便利」

という声があります。

\*「<sup>ゆめ</sup>自分プロジェクト」とは、自分の過去・現在・未来を真剣に考え、目標・夢・志を明確にして、実現する道のりを描く麗澤教育のプロジェクトです。



## 委員会活動の様子

図書委員会のイベント活動について、  
生徒はどんなところに楽しさを感じていますか？



生徒に聞くと、

「仲間と集ってイベントを開催するのが楽しい」

「本のお話でおしゃべりができて楽しい」

「カウンターでの貸出返却のお仕事が好き、面白い」

「普段、クラスメイトと話さないような真面目なこと、  
深いことも話せるときがあって良い」

と言っていました。





レポートにもありましたが、イベント企画『ジュラシック・パーク上映会』は、どのようなきっかけで始まったのですか？

様々なイベント企画がある中で、大人が準備するものもありますが、生徒が提案しました。中には、当日参加が難しいイベント系の生徒もいて、映画の上映に合わせて、事前に恐竜関係の本を集めたり、夏休みにいろいろなところでやっている“恐竜展”について調べ1枚にまとめたポスターを作成し掲示したり、恐竜の歴史や化石や進化に関連する本を書架から出して展示準備をしたりしました。

役割分担をし、1つのイベントにいろいろな人が協力する形となり、メディアセンターのホームページ（サイト）にも掲載しました。



POPの展示も素晴らしいですね。

POPを作成するとき心がけていることなどありますか？

生徒が扱いやすいように、はがきサイズの白いケント紙にしています。また、発色が良くなるようにラミネート加工をします。汚損防止にもなります。

こちらで用意するのはそれだけで、その後の工夫は生徒に任せています。例えば、黒の画用紙に白字で書いたり、和紙を切り貼りしたり、マスキングテープで飾ったりする生徒もいます。

生徒に工夫していることを聞くと、

「ぱっと見の印象で、字を見やすくする」

「あらすじをいっぱい書くと誰も読まないの、

文字数は多すぎず、絵で興味を引くようにする」

「物語の雰囲気から『色調はこんな感じかな？』など、

本の内容に合わせる」

等の意見がありました。

また、最近は手描きではなくデータで作成し、プリントアウトする生徒も増えてきました。今は canva など手軽に見栄え良くささっとおしゃれに作成できますが、やはり手描き POP には独特のぬくもり感があり、POP コンテストなどでの評価が高いです。





## ビブリオバトルについて



ビブリオバトルを実施して「よかったな」と思うことがあれば教えてください。

ビブリオバトルについて生徒に聞いてみると、  
「好きな本を話題におしゃべりできるのがすごく楽しい」  
「実際に参加してみたら、普段言わないようなことを  
人前で話す機会が作れた」  
と教えてくれました。

また、そんなに経験がなくても誘ってみると「やります」と  
言って参加してくれる生徒や「実際にやってみたら、ビブリオ  
っていいよね」と言う生徒もいました。

大人からすると、本をとおしてお互いを知ることができるい  
い機会だと思っています。

ビブリオバトルで5分間しゃべるといのは、慣れるまで結  
構大変です。しかし、慣れると5分では足りないくらい“推し  
本”を熱く語ってくれるようになります。

はじめはあまり興味なくて、「私はいいです、苦手で・・・」  
と言っていた生徒も、ビブリオバトルの常連さんになっていた  
りします。

ビブリオバトルは、好きな本を紹介するだけではなく、その  
本を読んで自分が何にどう感じたのかということをもみんなに  
知ってもらえ、さらにプレゼンする力も身につくので、いいこ  
とづくめです。はじめは敷居が高いと尻込みしていた生徒も、  
一度体験してみて、慣れてくればコツをつかみ、「もっとやりたい  
」となるように思います。

また、国語科や言語技術科の授業でも、ミニビブリオバトル  
に取り組むことがあり、生徒はそれなりにいろいろな本を選ん  
でいきます。クラスメイト40人が発表すると、自分が読まない  
ジャンルの本も幅広く知る機会が得られ、授業でやる良さもあ  
ります。





## 広報活動について・その他



多くの生徒に図書館のこと、イベントのことなどを知ってもらうために工夫していることは何ですか？

まず、図書委員の生徒からクラスの生徒に連絡してもらうために、図書委員会用の Google クラクルームを活用しています。

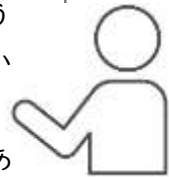
ただ、連絡がうまく伝わらず、情報が流れてしまう場合もあるため、どうしても全校生徒に伝えたいイベントなどの内容はクラス掲示を活用しています。

クラス掲示は、A4 サイズの用紙に“表題”“趣旨”“募集内容”などを記載し、朝や帰りの SHR (ショートホームルーム) に担任の先生がクラスへ持っていった案内掲示の内容を図書委員から伝えてもらいます。

また、教職員間の連絡ツールである“朝メモ (Google ドキュメント)”に記載し SHR でクラス担任から直接生徒に伝えてもらうこともあります。

他にも、図書館内や校内 (中学集会スペース、高校玄関、職員室前等) 掲示板などに掲示しています。なにより、メディアセンターリニューアル時に立ち上げたサイト (前述) でも広報していますが、その運用や周知方法の工夫も課題です。

それから、“学級文庫の選書”という図書委員の仕事があり、月いちペースで図書委員が自分のおすすめの本をクラスに持ち帰り (中学は 5 冊、高校は 20 冊程度)、SHR でアナウンスまたは紹介し、クラスの本棚や展示ラックにおさめています。





最後に、図書委員として「特によかった」と思うことは何ですか？

生徒からは、

「いろいろな本や、さまざまな本好きと出会える」

「自分の読みたい本が読み放題！

リクエストにも応えてもらえる！」

「ビブリオバトルができる」

「選書ツアーで書店の方が、POP 講習会をしてくれた。

あまり気にとめていなかった本、考え方を知るきっかけ  
となったり、楽しいイベントに出会えたりした。」

「図書委員をすると、“本好き”という、似たようなメンバー  
でも読む本が全然違うから、他のジャンルの本を知ることが  
できるし、その会話が楽しい。」

「とにかく図書館という空間が好き、いるだけで落ち着く」  
という声がありました。



**メディアセンターと図書委員会の皆さん、  
ありがとうございました！**

